令和6年度第5回山口県環境影響評価技術審査会議事録（要旨）

日 時：令和7年1月28日（火）14：45～16：45

場 所：下関市リサイクルプラザ啓発棟（Web会議併用）

出席者：委員7名、参考人(都決権者)23名

関係市3名、事務局5名、オブザーバー4名

議事「下関北九州道路に係る環境影響評価準備書」について、事務局及び参考人(都市計画決定権者（以下「都決権者」という。）)からの説明の後、以下のとおり質疑応答が行われた。

委 員 何か事が起こってから対処されるとの記載が、資料の随所に出てくる。例えばハイタカの渡りでは、ハイタカが橋梁等にぶつかってから何か対策を講ずるという理解でよいか。

参考人(都決権者) 今回の質問は、住民意見に対する見解で、予測し得ないことがあった場合に対処すると随所に記載していることを、懸念されているという認識で回答する。

見解に記載をしているとおり、例えば「道路環境影響評価の技術手法」や技術指針等、最新の知見と国土交通省令に基づき、また専門家の意見を聴きながら、適切に予測・評価をしていくという認識である。しかし、予測し得なかったこと、例えば動物・生態系の住民意見にある衝突等は、有識者の意見を聴きながら判断をしているところであるが、現段階で想定していない。そのような細かいところまで予測することは今の段階では困難であるため、周辺の変化等を事業実施段階でも把握しつつ、予測し得なかったことが起こった場合は、きちんと対処していくことを、準備書に記載している。

委 員 承知した。
もう一点、環境影響評価準備書の概要（委員限り資料）（以下「準備書の概要」という。）に関して、今回結構深く杭を打ち、掘削し、基礎もかなり地中深くに入れると思う。民間の方が井戸水を利用されている場合もあると思われるが、井戸水に関して評価はできているか。井戸水に関して、水の濁り等は評価されないのか。

参考人(都決権者) 今回の事業で、掘削等は行うが、トンネル等がなく、長大な距離を掘削する事業ではない。国土交通省令等に基づき項目選定等を行い、地下水への影響はないと判断したため、項目を選定していない。

委 員 もともと方法書で地下水の調査は計画していない。通常、井戸水は各県の調査の中で測定されており、問題が出れば行政で対処していくと思う。

委員 そのようなことがときどき起こると耳にしている。

委員 下関北九州道路に係る環境影響評価準備書についての意見等及び都市計画決定権者見解（委員限り資料）で、私が事前に質問をした No. 6 について。今日、最後に現地視察した福浦湾は、準備書の第 11 章の 9 の動物、10 の植物、11 の生態系で、希少種と指定された底生動物・魚類・付着動物・水生植物等が集中して確認されている場所である。ここは、陸上から見ると何の変哲もない漁港のように見えるが、生物多様性の高い場である。周りが関門海峡で、小規模ながらも藻場・干潟もある、浅場がないということも関係しているのかもしれない。この福浦湾の湾口に、橋脚が 2 つ設置され、突堤の一番先端部に主塔の脚の部分が設置されることに、懸念がある。構造物を設置することで、流速が変わり底質の配置が変わることを心配している。都市計画決定権者の見解は、流速が概ね 20cm/s 以下のため問題ないという回答であるが、砂泥底の底質であれば、20cm/s は砂が動くかどうかの流速の限界に当たるのではないのか。平均 20cm/s であるため、実際はより速い流れの時もあれば、非常に緩やかな流れの時もあり、限界流速を超えるケースもたぶんあるのではと思う。私は、流れが専門ではないので一般論的な話しかできないが、一般論として海中に構造物を入れれば、構造物の直近では縮流という現象が生じるので、流れは当然早くなると思う。漁礁の設置を見ると、海底の底質と構造物の間で、渦流が発生して底質が巻き上げられることはよく知られている。構造物の直近では、底質が粗くなったり、あるいはきめが細かくなったり、再配置が起こると思うが、それがこの福浦湾全体にどれくらい影響があるのか、判断する材料がないことに懸念がある。この湾は様々な生物がたくさんいる場所であると、準備書の調査結果から浮き上がっており、そこが心配な点である。それと関係して、湾口部に橋脚が固まって設置されるので、湾内と湾外との海水交流・海水交換に何らかの影響があるのか不明で、その判断ができないことが少し気がかりな点である。どうお考えか。

参考人(都決権者) 流況の予測について、準備書の第 11 章に記載している。福浦湾内におけるケーソン設置前と、ケーソン設置後の流速の変化について、夏と冬、潮汐等を踏まえても、概ね±1cm/s 以下という予測結果である。よって、海水の流動変化による湾内の堆積物の流失は、可能性は低いと考えている。

委員 承知した。

委員 20cm/s に対して、変動が±1cm/s ということか。

参考人(都決権者) はい。

委員 準備書の中で活断層という単語が随所に見られるが、準備書の中での活断層の位置付けをもう一度確認したい。

参考人(都決権者) 断層は、地形・地質として捉えているが、準備書の地形及び地質の項目では、いわゆる学術的に貴重な地形・地質を対象として予測・評価を行っており、活断層は想定していないが、活断層については、詳細な調査を行いながら、専門家の意見も聴いて把握をしている。

委員 つまり、環境影響評価とは別の観点の評価になるという意味か。

委員 1点要望であるが、要約書の3-37の(2)で、「対象道路の構造は、陸域では、河川及び・・・、海域では、活断層の存在から安全面に配慮して」と書かれている。一方、要約書の11-21や4-4では、活断層の存在は『可能性がある』と評価されているので、3-37で『存在から』といきなり言い切るのはいかがでしょうか。もし今の位置づけで良いなら、3-37の活断層の部分は、例えば削除するか、『存在の可能性がある』としておくといいのかもしれない。環境影響評価のため、安全とはまた別に防災等で検討されると私は伺っているので、例えばこの「海域では」の文章は、福岡県知事の意見だったと思うが「橋梁及び主塔は最低限の箇所数で～」とつなぎ、活断層については、別途検討しますとするのが良いと思うが、いかがか。

参考人(都決権者) 承知した。書きぶりは、また検討する。

委員 海域での工事の場合、汚濁防止膜の使用が説明でよく出てくるが、関門海峡のように流れの速い場所で、このようなフェンスが張れるか疑問に思う。潮止まりの時に、集中的に工事をするような気もするが、使用法を教えてほしい。

参考人(都決権者) 汚濁防止膜は、様々なタイプがあり実績や効果が蓄積されている。潮流が発生する条件によって、具体的な内容を今後検討する。

委員 工事箇所が、下関側は岸に近いので汚濁防止膜を張れそうだが、北九州側はかなり沖に出ている。必要に応じてケーソンで囲むなどの方法を検討するという理解でよいか。

参考人(都決権者) 流れや状況で、工法は検討していく。

委員 景観に関して、今関門海峡に架かっている橋も、人と自然との触れ合いの活動の場の中に、人工物ができている。あのあたり一帯は、北九州の人は下関の景観を見て、下関の人は北九州の景観を見て生活している。関門海峡は、世界でも稀にない美しい海峡だと言われている。今回架ける橋に

について、山口県側からの景観だけではなく、対岸からの景観を、今回の審査会で取り上げられないか。

もう一つ、関門景観条例に、この範囲が含まれているであろうと、先ほどバスの中でお聞きした。そのあたりを、今回の景観の環境影響評価の中には取り入れられないかと思う。

参考人(都決権者)

景観について、県内だけの話ではなく、関門海峡を跨いでの景観について評価しないのかについて、そちらから回答する。

大規模事業でも、目に入る距離は概ね 3km 程度と言われている。よって、道路の事業実施区域から概ね半径 3km の範囲の中で、我々は眺望点を選定し、そこから事業の方向を見て、どのように見えるかを予測している。準備書では、主要な眺望点が 7 地点と身近な眺望点 4 地点を選定している。この中には、当然反対側の北九州市側から下関市側を見た視点場もある。

2 つ目の景観条例に関して、現地視察で、関門景観条例のエリアに入っているような回答をしたが、入っていなかった。下関市景観条例のエリアには入っていると聞いている。条例について把握しているので、届出等の手続きは当然行い、手続きを通じて、景観的な配慮をしていかないといけないと考えている。

参考人(都決権者)

ただ今の説明の補足だが、事業実施区域は関門景観条例の関門景観地域・形成地域には入っていない。ただ下関市景観条例で、下関全域について景観条例の届出が必要である。また、例えば、下関の景観に係る審査会を別組織で持っているのも、そちらに諮ることもある。北九州市も同様である。北九州市と下関市で、景観に対して一体とした見解を持たないといけないので、都市計画決定後、事業者が決まり、詳細設計がされる際、下関景観に対する審査タイミングや審査方法等について、協議したいと思う。

委員

山口県だけではなく、北九州市も含めて、道路から 3km ではなく、お互いが見合っ環境評価をすべきではないかと思う。それをすり合わせる方法について、疑問が残っている。特に景観に関しては、お互いを見て生活をしているという視点での評価基準がないのか。山口県だけの評価ではないかと思う。北九州市でも、同じような会が開催されているのか。それをすり合わせて、こういう書類にするということか。

参考人(都決権者)

現在 6 調査主体で、本事業の検討を進めているが、その 6 調査主体に、国は九州と中国の整備局、それから福岡県、山口県、北九州市、下関市が加わり、連絡調整は十分行っている。この環境審査会は、もちろん福岡県側でも開催されており、最終的には福岡県知事意見、山口県知事意見というかたちで都市計画決定権者に意見が提出され集約されるという認識である。都市計画決定権者のもとに、審査内容は意見として集約され、最終的に評価書を

決めていくと思う。

委員 つまり、下関側は下関側としてこの評価が妥当かどうかを確認すれば良く、福岡側は福岡側で同じことをやっているという理解で良いか。

事務局 法制度上はそのようになっている。それぞれの県に対する影響についてそれぞれの県が審査をする。一方で景観を始め、鳥類の渡りのように横断的に影響が懸念されるものについては、切り分けが難しいと思われるため、どちらがどちらに対して意見を言うということはない。どういった景観形成をしていけば良いか等、頂いた意見は、県知事意見としては取り上げることは可能である。

委員 準備書の概要の10枚目スライドの粉じん、予測値が参考値を超過する地点が3点あり、保全措置を講じて、参考値以下になる予想である。例えば⑤番は、もう少しで参考値を超過しそうである。現状の粉じんの数値と工事中の粉じん量の比較はないのかというのが1点、粉じん自体は風があれば飛んでいくと思うが、この地域だと海から陸側に吹く風の方が強そうなので、風下側に家がある場合、洗濯物を干していたりすると問題にならないかという点が少し気になった。粉じんは、普段の環境でも高いのか。

委員 例えばどこか。

委員 ⑤番下関彦島3丁目が一番高濃度で、保全措置を講じても、参考値ぎりぎりである。そこで風が吹くと粉じんが舞い、周辺に家があると、車が汚れたりする。周辺の方々へのそういう影響は気にしなくて良いレベルなのか、普段から高いから大丈夫なのか、工事をする事で異常に高くなるのか、どちらなのかと思った。

参考人(都決権者) まず現況値について、資料4の住民意見のNo.5のとおり、住民からも意見が出ている。北九州市では、既存事業で、管内の調査が行われているが、下関市では公共の資料がないと聞いている。事業で発生する粉じん量の予測は、現況値の把握が不要であるため、把握していない。ただ、北九州市の現況値がどの程度かという点、地点ごとに数値が異なるためはつきりとは言えないが、地表で10t/km²/月以下となっている。判断基準として、「スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標」という参考値が設定されている。この値が、20t/km²/月で、全国の一般局で測定された降下ばいじん量の比較的高い地域の値が10t/km²/月であるため、その差分から、参考値が10t/km²/月となっている。よって、事業から排出される粉じんが多いか少ないかは、参考値10t/km²/月を基準として判断している。

委員 準備書の概要の10枚目スライド、⑤の9.7t/km²/月という値が、条件によっては参考値を超過しないかという質問に対する回答はいかがか。

委員 通常が10t/km²/月以下だとすれば、この3地点、特に⑤番の地点は通常の3倍程度まで増えるが、保全措置を講じることで通常と同程度になるかは不明だが、その予想を書かれていると思う。例えば、その周辺の住人の数、影響の大きさについて予測はしなくても大丈夫か気になった。

参考人(都決権者) 現況の何倍になるかは、現況値がないため分からないが、工業地帯等ではないため、かなり低い値と予想される。影響があるかないかは、先ほどの指標、生活に支障があるかどうか、そういった部分で判断している。よって、その指標が20t/km²/月とした場合、それよりもかなり低い値になっていると思われる。予測値は、工事施工ヤードで散水等を行った場合の値で、それ以外にも作業方法の改善や、事業者のできる限りの対策を行い、粉じんの量をより下げていくことを目指している。そういった部分から、大きな影響はないと考えている。

委員 地表で20t/km²/月という数字の根拠を説明されたい。

参考人(都決権者) 「スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標」は20t/km²/月である。

委員 その20t/km²/月と先ほど説明された参考値の10t/km²/月との関係はどうなっているのか。

参考人(都決権者) 準備書の概要の10枚目スライドの一番下に、降下ばいじん量の参考値についての注釈・解説を示している。降下ばいじん量の参考値とは、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考にして設定しており、その指標が20t/km²/月となる。

委員 では10t/km²/月は何か。

参考人(都決権者) 全国の一般局の測定値が、最大で10t/km²/月であることから、20t/km²/月と10t/km²/月の差分の10t/km²/月を、事業からの排出量に係る参考値とした。

委員 今、現状が例えば0.5t/km²/月の場合、0.5t/km²/月プラス9.7t/km²/月というイメージか。

参考人(都決権者) そうである。

委員 指標値は20t/km²/月以下で、例えば、現況値が10t/km²/月の場合、これに9.7t/km²/月プラスで、生活環境の保全が必要な地域の指標値以下であるという考え方で、この値を見たら良いということか。

参考人(都決権者) そうである。

委員 ようやく理解した。

委員 わかりにくい。値が参考値ギリギリであることも気がかりである。わかりやすい記述にされたい。

委員 住民意見で、ヒヨドリ等、様々な生物の名前が出ていたが、今日の事業者説明で述べられなかった生物に関しては、橋が設置されたとしても他にも飛行ルートがある等の理由で、取り上げなくても良いと理解した。

一方、ミサゴ、フクロウとスナメリには影響があるので、コンディショニングやソフト・スタート等の対策を取ると説明されたが、具体的にどうするのかわからなかった。また、この3つの種に対してモニタリングするということだが、モニタリングすれば良い問題かも判断できなかった。影響が出ることが判明している3種に対する対策を、まず詳しく説明されたい。

参考人(都決権者) 準備書の11.9-267ページに、陸生動物に対する環境保全措置を記載している。ミサゴとフクロウに関して、繁殖期の建設機械の稼働音が繁殖に影響を及ぼす可能性があるため、繁殖期に配慮した施工時期の検討ということで、これら2種の繁殖期をできるだけ避けて工事を行う。また、段階的な施工の実施(コンディショニング)によって、騒音に馴化させていく。これらは、すでに多くの知見がある。具体的な時期と保全措置の内容を、より詳細に検討するため、事後調査を実施する。その他、低騒音型建設機械の採用や、フクロウの生息が確認されている営巣林を改変するので、代償措置として巣箱を設置する。

委員 スナメリはどうか。

参考人(都決権者) 準備書の11.9-272ページに、水生動物に対する環境保全措置を記載している。水底の掘削工事等における施工開始時の工夫(ソフト・スタート)とは、スナメリがいる所で急に音を出すと、スナメリに致命的なダメージを与える可能性があるため、徐々に工事を開始し、騒音が発生することをスナメリに伝え、工事位置からスナメリが逃げていく時間を与えることである。

委員 モニタリングは非常に大事であるが、モニタリング結果をどう判断し、どうするか。先程も、似た質問があったと思う。

参考人(都決権者) ソフト・スタートに関しても、具体的な時期や工事の種類を、今後検討する必要があるので、事後調査をする。スナメリの生息状況を確認し、どのような工事がそこで可能かを判断する。それらの効果の有無は、調査結果と専門家の意見を踏まえ判断していく。

委 員 その都度、専門家と話し合うのか。

参考人(都決権者) はい。

委 員 配慮書と方法書から、この案件に関わっている。この事業で植生と植物に関して、彦島福浦町金比羅神社社叢が、一番留意すべき箇所と以前から認識している。その植生や植物が受ける影響の予測調査の結果が、準備書の概要の44枚目スライドに示されており、8つの植物種が重要という認識で列挙されている。重要な捉え方が不明で、その周辺に多数あるから重要なのか、それとも一般的に絶滅危惧が心配されている植物種だから重要と考えたのか。いかがか。

参考人(都決権者) ここでいう重要な種というのは、学術的に貴重ということで、数が絶滅危惧である種、レッドデータブックに掲載されている種等が対象となっている。

委 員 私も、そう思っていた。かなり大規模な植生の改変が行われそうな地域は、彦島福浦町金比羅神社社叢だけでない。事業の概要の5ページの地図に、彦島有料道路から抜けて、ひこつとらんどマリンビーチから切土盛土が繰り返され、福浦金刀比羅宮へ出るルートが示されている。その辺りにも重要な植物種が存在し、予測調査の範囲内に含めておく必要があるのではと心配になった。いかがか。

参考人(都決権者) 現地調査の中で、重要な種の具体的な位置を把握している。その結果、そういった重要な種の生育地が改変されることはないという認識である。

委 員 準備書の概要の44枚目スライドは、この辺りに、貴重な植物種が割とたくさん自生しており、地形の改変が少々行われても、植物は影響を受けないような書きぶりとは見している。どうか。

8つの植物種の中で、もう少し注意を払った方がいいものとして、例えばハマハナヤスリがある。これはレッドデータブックやまぐち2019に、絶滅危惧1B類として掲載されている。準備書の11.10-55ページで、山口県に存在せず、北九州市で1個体存在し、十分配慮する必要があると思う。ハマハナヤスリは、レッドデータブックやまぐち2019に掲載されていると認識し、よく調査検討されたい。

もう1種類は、以前から話題に上っていた植物で、アキザキヤツシロランである。これは、存在場所は明瞭になってないが、おそらく彦島福浦町金比羅神社社叢の中に30個体あった記載がある。これはラン科の植物で、共生菌がいる竹林で、竹の葉っぱが落ちて堆積し腐食したような所で優先的に生育する植物種である。竹林がダメージを受けると、この植物もなくなる可能性がある。ひこつとらんどマリンビーチ付近から福浦金刀比羅宮まで、竹林が存在しないこと、影響を受けないことを確認しているか、心配になる。ちなみに、現地視察時、車窓からずっと山の方を見ており、笹の類は繁茂している様子は目に止まったが、竹林らしきものはあまりなかった。アキザキヤツシロランも8つの中では重要種と認識して、調査し、保全を考えられたい。

参考人(都決権者)

準備書の11.10-12ページに、重要な種の状況について記載している。そこに、重要な種の選定基準を記載している。レッドデータ等でカテゴリーが付与されているもの等を、重要種と選定している。現地調査で確認された重要な種を対象として評価し、その生育地が改変されるかどうか。また、道路ができることによる生育地の環境変化で、生育できなくなるかどうかの観点で予測評価している。

例えば、竹林にいる種があるとして、対象種の生息地が改変されるかどうか、またその種が生育地として使う竹林が何パーセント程度改変されるか、そういった改変率についても把握し、予測評価している。その改変率が、影響が生じる程度ではないと判断されると、影響なしとしている。また、予測評価の段階で、専門家の先生へ聞き取りし、問題なしとしている。

委員

この2種については、山口県の中でも、日本の中でも、かなり重要な希少種だという認識がされていると思われるので、気をつけられたい。

参考人(都決権者)

承知した。

委員

〇〇委員は、特に重要な2種についても、きちんと予測評価されたいという意見と思う。回答では、実際に生息しているかとは別に、竹林が減らないかも確認しているという意味のことを述べられた。そう理解していいか。

参考人(都決権者)

準備書の11.10-50ページ以降に、予測結果を示している。この中で、主な生育環境がどのような環境なのかを記載している。予測評価は生育個体の消失割合から行っているが、生育環境がどの程度消失するかについても別途、把握している。

委員

具体的な生育場所とは別に、生育環境自体の減少率を確認しているということか。

参考人(都決権者) はい。

委員 欠席の委員には、生物や生態系に関わる方がいらっしゃる。欠席委員から、意見は出ているか。

事務局 審査会の欠席委員から、追加の意見はない。

委員 大気質の予測結果に、交通量の設定条件が、一番影響すると考える。準備書の11.1-11 ページ以降に予測手法の記載があり、交通条件を入力することとなっている。準備書の11.1-33 ページで、2040年の計画交通量を基に予測するとしている。計画交通量は、実際は、数値が上振れ・下振れすると思われるため、幅を持って予測しないと、影響の程度の範囲がわからない。ここについて、計画交通量のままで予測されるのか、今後、数字をもう少し上下に振って予測されるのか、お聞きしたい。

委員 幅を持たせた予測計算を、追加したらどうかという理解でよいか。

委員 そのとおりである。計画交通量は、一応は根拠があるだろうが、実際は数値が上下に振れると思うので、幅が必要と思う。

参考人(都決権者) 交通量は将来の交通ネットワークを想定し、最大交通量で予測評価している。最大交通量で予測しているので、幅を持たせていない。

委員 説明について理解できる部分はある。交通量の話をしている理由は、 NO_2 と騒音の予測計算結果は、交通量が影響する。交通量が2倍になっても、大丈夫と安心できる幅があったほうが良いと思う。計画交通量が、最大値か、平均値か説明しないと、予測計算の結果が何の数値かわからない。

委員 評価書に向けて、計算の追加を希望するということか。

委員 理想は、その通りである。難しいのであれば、困難である理由や、最大値による予測値であると説明があれば納得できる。

委員 最大値による予測値ということが、きちんと伝わるようにされたいということか。

委員 そういうことである。計画交通量が、平均値か何の数値か、疑問を感じたので質問した。最大値であれば、このままで良いと思う。

委員 わかりやすく誤解のないよう、図書作成の際は注意を払われたい。

委員 今日、彦島福浦町金比羅神社社叢付近を現地視察した。その辺りの陸生植物の予測結果について、準備書の概要の44枚目スライドに、日射量による質的变化は生じないと記載されている。道路の設置位置を視察すると、日射量にかなりの変化があるのではと感じる。特に彦島福浦町金比羅神社社叢は、割と日射が遮られるのではと思う。質的变化は生じないと言い切っており、本当にそうかと心配になる。いかがか。

委員 日射量の説明でも、桁下からの日照を考慮したら影響が少ないと説明があった。普通は桁下からの日照は考慮していないのか等、日射量に関して疑問を感じる説明だった。そこも含めて回答いただきたい。

参考人(都決権者) 植物への日射量の影響は、橋梁構造によって、どの程度日影ができるか予測している。盛土の場所だと、日影は法面上に生じるので広い範囲で影響は生じない。予測では、道路用地の端部から30mの範囲を日射量による生育環境の変化が想定される範囲としている。社叢付近の橋梁部では、日影による影響を受ける範囲がどの程度かきちんと予測している。

委員 準備書の概要の44枚目スライドは、特に橋梁部分の予測結果について記載されている。地上から50m付近に橋が通るとした場合、朝方から昼間にかけて、けっこうな影が彦島福浦町金比羅神社社叢に発生すると思われる。この記載は少し乱暴ではないかと感じる。対象道路が近傍を通過しないためと記載があるが、近傍を通過する。

委員 予測済みであるため、減少率の図が提出されれば、一目瞭然と思うが、そのような物はないか。

委員 証拠が示されると、より理解しやすい。準備書の概要の44枚目スライド右側に植物の写真があるが、写真の代わりに減少率の図を示してほしい。説得力があると思う。

委員 既に日射は予測済みのため、評価書にそれを載せてほしいと要求をしても問題ないか。

委員 一番近傍を道路が通過する福浦金刀比羅宮周りで、日射量の減少率が何パーセントかを示す二次元マップなど作れないか。

参考人(都決権者) 日影の影響は生育個体、群落ごとに見ているため、そのような図を評価書に載せるかは、今、回答できないが、委員限りで、考え方や概ねの範囲を示すことは可能である。

- 委員 道路が近傍を通過していないとは言えない場所のため、この説明で問題ないと判断するのは難しい。きちんと示していただきたい。
- 参考人(都決権者) 道路の影と社叢の位置関係について、次回の審査会で説明したい。
- 参考人(都決権者) 社叢のところで概ねの日影の生じる範囲は準備書の 11.8-23 ページ、日照阻害で予測している。
- 委員 ○○委員が問題にしているのは、むしろ斜面である。
- 参考人(都決権者) 斜面は、日影がほぼ発生しない。この予測は、橋脚が1つの壁のような形とした場合で、桁下空間から光が通過することを考慮すると、日影となる時間はこの予測より短くなる。
- 委員 準備書の 11.8-23 ページの図は、住居がある部分に対する影響を示しているため、○○委員が問題にしている植生がある場所も含めて、回答されたい。
それでは、本日の議事は終了する。

(閉会)